

《2017年7月（通算251回）月例会報告》

お宝映像上映会

—いわゆる「ドーハの悲劇」と「ジョホールバルの歓喜」—

【日時】2017年7月24日（月）18:30キックオフ（18:00開場）

【会場】フットボールサロン4-4-2（東京都墨田区江東橋4-16-5 SKビルB1）

【テーマ】お宝映像上映会—いわゆる「ドーハの悲劇」と「ジョホールバルの歓喜」

【お宝映像】

1) 1994FIFA ワールドカップ・アメリカ アジア最終予選

1993年10月28日 於アル・アリストジアム（ドーハ＝カタール）

日本 vs イラク（いわゆる「ドーハの悲劇」）

2) 1998FIFA ワールドカップ・フランス アジア第3代表決定戦

1997年11月16日 於ラーキン・スタジアム（ジョホールバル＝マレーシア）

日本 vs イラン（いわゆる「ジョホールバルの歓喜」） ※時間の都合で延長戦のみ上映予定

【参加者（会員・メンバー）9名】

川名紀義（株式会社ページー）、岸卓巨（日本スポーツ振興センター）、北原由（都立武蔵高校）、小池靖（在さいたま市／サッカースポーツ少年団指導者）、齋藤宣彰、徳田仁（楸セリエ）、中塚義実（筑波大学附属高校）、守屋俊秀（世田谷サッカー協会）、吉原尊男

【参加者（未会員）6名】岸清馨、守屋佐栄、岡怜美（早稲田大学）、佐々木瞭（慶応大学）、丸山幸子（ジョホールバルの歓喜20周年記念事業委員会）、国島栄市（ビバ！サッカー研究会）

【2次会からの参加】今廣佳郎

【報告書作成者】参加者らによるコメント

<目次>

はじめに（月例会案内より）

I. 趣旨と概要

1. 月例会案内より（2017年6月25日配信）

2. 最終案内より（2017年7月24日配信）

II. 当日の様子（ML投稿記事より）

1. 月例会報告（簡略版）より（2017年7月28日配信）

2. 時程と概要

III. 参加者からのコメント（投稿順）

・川名紀義

・中塚義実

・吉原尊男

I. 趣旨と概要

1. 月例会案内より (2017年6月25日配信)

2018FIFA ワールドカップ・ロシアの予選が世界各地で繰り広げられています。日本は6/13にイラクと引き分け、8/31のホームでのオーストラリア戦で決めておかないと、9/5はアウェーでのサウジアラビア戦にもつれ込みます。Bグループ3位以内は確定しているので落ちることはありませんが、嫌な展開になってきます。久しぶりの厳しい予選です(Aグループの韓国も苦しんでいますね)。

若い世代にとっては初めての厳しい予選かもしれませんが、ちょっと前まで日本にとって、ワールドカップは夢のまた夢の世界でした。それが少しずつ現実のものとなり、いよいよか、となってきたのが、Jリーグができてプロサッカーのある国として迎えた1994年アメリカ大会の予選です。日本中が盛り上がり、舞い上がる中、カタールで開かれたアジア最終予選は、日本、韓国、北朝鮮、イラン、イラク、サウジアラビアという、いまから思うとぞっとするような総当たり戦でした。

久々の「お宝映像上映会」では、このトーナメントの最終戦、日本 vs イラクの試合を開始から終了まで、当時の映像で楽しめます。解説は前田秀樹さん。若い人はご存じないかもしれませんが…。

この映像だけで終わってしまうと悲しいので、1998フランス大会のアジア第3代表決定戦、日本 vs イランの試合も上映します。マスコミが「ジョホールバルの歓喜」と報じたこのゲームを全部見ていると遅くなるので、延長戦のみ観戦しましょう。20:20ごろからの上映になるでしょうか。1997年に「サロン2002」を名乗るようになった私たちにとっても思い出深いゲームです。

「この20年」を語りながら夏の一夜を過ごし、8/31のビッグマッチに備えようではありませんか！8/27には「20周年記念シンポジウム」があります。そこにもつなげていきたいですね。

2. 最終案内より (2017年7月24日配信)

スポネットサロン2002メンバー(含NPO会員)各位

月曜日ですが、本日は7月の月例会です。いつもと場所も時間帯も異なります。ご注意ください。

「お宝映像」はVHSなので、DVDにダビングしておこうと思って金曜日の夜、自宅で息子にやってもらいました(私にはその技がない)。約2時間かけて「ドーハの悲劇」をDVD-Rに移すことができたのですが、VHSを巻き戻して取り出そうとしたところテープが引っ掛かり、結局そのままビデオデッキを修理に出すことになりました。「ドーハの悲劇による悲劇」です。

「ジョホールバルの歓喜」はVHSのまま持参しますが、幸いこの動画はネットからダウンロードできるようです。何とか“歓喜”までたどり着きたいところです。

HPに参加・不参加の意思表示をされていない方は、当日ではありますが書き込みをお願いします。

<http://www.salon2002.net/announce/?id=116>

明日は錦糸町。おおまかな時程は次のとおりです。

18:00 開場 → 中塚はこの頃到着予定です。

18:30 お宝映像(1) 日本 vs イラク (いわゆる「ドーハの悲劇」) 上映開始

※ドリンクは各自調達(店の近くの酒屋から持って来てもらうことは可能)

20:10 ごろ 映像終了 小休止

20:20 お宝映像(2) 日本 vs イラン (いわゆる「ジョホールバルの歓喜」) 延長戦上映開始

※ここからは料理をつまみながら(近くの中華屋から出前?)

21:00 ごろ 映像終了 歓談

以上

II. 当日の様子（月例会参加者をスポネットメンバーにお伝えしたメールより）】

1. 月例会報告（簡略版）より（2017年7月28日配信）

7月24日（月）夜の錦糸町は、日本とワールドカップの関わりを、懐かしい映像とともに振り返る貴重な場となりました。ジョホールバルから参加された方からは、12月22日の「FIFA ワールドカップ出場20周年記念試合」の紹介もありました。サロン2002の20周年は、日本のワールドカップ出場20周年でもあるのですね。気になるイベントです。

まずは参加者名のみご報告します。添付ファイルは当日の配布資料です（写真は除きました）。日本とワールドカップの関わりを再確認するための資料としてご利用ください。1954年のW杯初挑戦については、『あのひと、あのとき—エピソードで綴る筑波大学蹴球部の120年』から、村岡博人氏（1954年スイス大会予選、対韓国第1戦のGK／東教大蹴球部2期生／東教大附中OB）の原稿を引用しました。お楽しみください。

今回の月例会報告は、参加者自身によるコメント集の形でまとめます。参加者は8月10日までに中塚義実まで、Eメールにてコメントをお寄せください。字数は問いません。

参加できなかった方からのコメントもお待ちしています。（以下略）

2. 時程と内容

18:00すぎ 開場

18:30 お宝映像（1）日本 vs イラク（いわゆる「ドーハの悲劇」）上映開始

中塚家で見ていた映像をそのままVHSに録画したものが元ネタである（これをDVDに焼き直した話は前記のとおり）。試合映像はテレビ東京のもの。現地では久保田光彦アナと解説は前田秀樹。ダイヤモンドサッカーでおなじみの金子勝彦アナと釜本邦茂、森孝慈の両レジェンド、主将の柱谷哲司の兄、幸一が東京のスタジオにいる布陣である。

NHKBSでも放送があり、ハーフタイム時や試合後は、そちらにチャンネルを切り替えている（当時のレコーダーは、見ている番組をそのまま録画しているようだ）。東京のスタジオには、4年後の監督となる岡田武史と、当時JFA技術委員で現JFA会長の田嶋幸三がいる。田嶋さんは当時NHKの解説の仕事もされており、その下請けのような感じで、私もNHKBSの「Jリーグダイジェスト」や、その流れを汲む「ワールドカップダイジェスト」の番組制作の手伝いをしていた。試合後に渋谷のNHKスタジオに入り、90分の試合を3分に縮める仕事である。戦術的などころも加味したこの仕事は大変ためになった。

- ・ドリンクは各自調達。守屋夫妻のおつまみがよかった
- ・続々と参加者が集まる。思い出話に花を咲かせながら、みな試合に集中。
- ・日本の選手はよく動くし、一人ひとりが際立った個性を持っている。おもしろい。けどイラクの選手もうまい。
- ・最後はいわゆる「ドーハの悲劇」のシーン。けどその前に、何度もこちらのボールになっている。いまだったらあの時間帯に、不用意にボールを奪われるようなことはしなかっただろう…。それにしてもタフなトーナメントである。体力的にもギリギリだったのだろう。

20:20ごろ 映像終了

自己紹介タイムを設け、それぞれの「ドーハの悲劇」と「ジョホールバルの歓喜」について語った。またこの時間に、近く中華料理屋から出前を注文、近くの酒屋からもドリンクを調達。参加費1,000円と合わせても一人3,000円で済むのは安い！

それぞれの人生とワールドカップの交わり。人の数だけ物語がある。この日が初参加の丸山さんはジョホールバルからの参加。「ジョホールバルの歓喜20周年」を記念して、12月22日に記念試合を予定しているとのこと。これは関わりたい！

21:00 お宝映像(2) 日本 vs イラン (いわゆる「ジョホールバルの歓喜」) 延長戦上映開始
自己紹介タイムがおもしろすぎて少し長引いたため、吉原さんはここで帰らねばならなかった。残念。他の方は出前の中華と豊富なドリンクを楽しみながらの観戦となる。

VHSは危険だったので、ユーチューブからダウンロードした映像を上映することにしたが、はじめはうまくいかなかった。ようやく調整でき、延長戦から観戦。岡野が外しまくるシーンは記憶に鮮明に残っている。そして最後にその岡野が…。

幸せなひとときであった。

21:50 ごろ 映像終了 歓談

ここから先はいつもの飲み会。それぞれの時間を見計らって、夏の夜を楽しく過ごした。

(文責: 中塚義実)

Ⅲ. 参加者からのコメント (投稿順)

◆川名紀義

20年以上も前の試合ながら、さほど古さを感じることもなく観ることができました。時々、一発狙いのスルーパスや、ややキックの精度が劣るような印象もありましたが、組織的なサッカーを心がけているように感じました。

当時、大ベテランだと思っていたラモスでさえ、現在の自分より年下であり、多くの選手が監督として活躍しているというのは、隔世の感があります。そしてジョホールバルの歓喜には、ドーハの悲劇のメンバーはほとんどおらず、その4年間を引っ張ったカズや井原のような選手たちには期するものがあっただろうと察します。その中で、中田や岡野のような当時の若者が活躍することで、世代交代を印象づけられました。(8月10日)

◆中塚義実

いわゆる「ドーハの悲劇」も「ジョホールバルの歓喜」も、得点シーンは何度も見ているが、最初からみたのは生中継に見入っていたあのとき以来である。当時の状況や時代背景が懐かしく思い出された。

両試合とも自宅でのテレビ観戦であった。1993年11月、自宅には妻と2歳になる長男、そしてもう一人、近所の大学生のあんちゃんがいた。筑波大附の近くにある日大豊山高校サッカー部OBのS氏である。板橋本町からの帰り道、大学生になったS氏がくわエタバコで歩いている(そそくさとタバコを処理していた)ところでばったり会い、挨拶を交わしたのが近所付き合いの始まりである。将来はサッカー番組を作りたいと言っていたS氏は何度かサロンにも顔を出したように記憶している。日本のW杯初出場をともに見届けることになったのは自然の流れであった。

いい気分飲んでいて。テレビからは「ア～メリカへ行こ～う、みんな～で～行～こ～う」の歌声が聞こえてくる。90分を過ぎて、歓喜のときまであと少し。ラストのコーナーキック。しかし…。これがフットボールだということを日本中が思い知らされた場面である。「ゲームを終わらせる」文化は、Jがはじまりイケイケになっていた選手もサポーターも、そしてテレビ解説者も、持ち合わせていなかった。

ちなみに同日、1998年のホスト国フランスも、終了間際の決勝ゴールでブルガリアに敗れて出場権を失っていたことは翌日知った。イスラエルとブルガリアのホーム2試合のうち勝点1を積み上げれば良かったのに…。天国と地獄は紙一重である。

1997年11月。わが家には娘がおり、家族4人でテレビ観戦。S氏は希望がかなってテレビ局に就職し、ジョホールバルで取材中。4年周期は人生の節目としてちょうどよい。

「今度こそ」の思いは前回以上である。なぜなら我々はすでに、次回2002年のホスト国であることが決まっているのだから。フランスには必ず行かなければならない。そういう必死の予選であった。願いがかなったとき、ほんとうにうれしかった。これでようやく日本も世界の一員になれたと思った。政治や経済だけではアカン。サッカーの世界で表舞台に出なくては。それがワールドカップである。

ジョホールバルのラーキンスタジアムには2006年に行ったことがある。高校生の引率でシンガポールに行く機会があり、週末に少しだけ自由時間ができたのでマレー鉄道で一駅隣のジョホールバルに出かけてみた。ジョホールバルは、いまではきれいな街になっているそうだが、あの当時は隣のシンガポールと比べるとだいぶ遅れている印象を持った。ラーキンスタジアムも田舎の小さなスタジアムで、ここであの試合が行われたのかと、少し拍子抜けするようなどころである。けど、更衣室からピッチに向かう通路には、この試合の写真が何枚も貼ってあった。ラーキンスタジアムにとっても、大切なビッグマッチだったのだろう。

8月31日と9月5日を前にして、この二つの試合を改めて見る機会が持てて良かった。ワールドカップ予選はやはり他の試合と違う。いい意味で緊張感を持って臨みたい。(8月13日)

◆吉原尊男

「ドーハの悲劇」：この映像を最初から生中継で見たのはあの時以来でした。何度となく放送されたあのショートコーナーからの同点ゴール、ベンチで崩れ落ちる中山、立ち上がれないラモスの肩に手をかけるオフ監督・・・自分にとっては忌まわしき負の歴史として、見たくない気持ちが強かったのかもしれませんが。あらためて見直して、やはりイラクは強い！後半あれほど主導権を握られては、ある意味よく引き分けで済んだなど。(今年6月のアウェイ、テヘランでのゲームも後半は圧倒されていましたね。)

結果的にこの予選では、日本は東アジア勢には勝ったものの中東勢には引き分けがやっとならぬ未勝利、まだまだ日本サッカーは発展途上だったのでしょう。それでも、映像を見ながら、ワンプレーごとに「そこはキープだ！」、「前から突っかける！」、「中の選手のマークだ！」等々大いに盛り上がりました。

もし歴史が変えられるならば、個性的なメンバー揃いだったこの時の代表メンバー、とりわけ全盛期のカズにアメリカへ行かせてあげたかったと感じるのは自分だけでしょうか？

「ジョホールバルの歓喜」：時間の都合でさわりの部分しか見られず残念！

この予選は、ゴールラッシュだった初戦ウズベキスタン戦、山口のループシュートに鳥肌が立った韓国戦は国立で生観戦しました。その後、監督交代など経てやっとなどり着いた第3代表決定戦はBS観戦、この時のイランも強かった。延長戦では何度肝を冷やしたことか。岡野のゴールでやっとなどり着いたW杯、初めて世界への扉が開かれたあの日の映像は何度見てもあの時の感激が蘇ります。

翻って今回の予選は苦戦の連続、これまでの予選とは違い各国の力が接近している。オーストラリア戦はまさに「絶対負けられない戦い」そのもの。埼玉での勝利あるのみだが、20年前と同じ第3代表決定戦で相手がまさかの韓国なんてことにならないことを祈ります。(8月15日)

<FIFA ワールドカップ アジア予選 (1930~1954 日本の初挑戦まで) >

1930 ウルグアイ【本大会 13】

北中米 9 か国&欧州 4 か国のみ

1934 イタリア【エントリー32/予選参加 27→本大会 16】

南米はブラジルを除いて不参加。北米はアメリカがメキシコを破って出場。他は欧州勢

1938 フランス【エントリー37/予選参加 21→本大会 15】

日本は初エントリーするが棄権。アジアからはオランダ領東インドが出場 ●0-6 ハンガリー

1950 ブラジル【(FIFA 加盟 73 のうち) エントリー34/予選参加 19→本大会 13】

日本の再加盟は 1950 年 9 月 (エントリーできず)。

アジアからインドの出場が決まったが、裸足での参加を FIFA から拒否されたため出場辞退

1954 スイス【エントリー45/予選参加 33→本大会 16】

1954 年 3 月 7 日 (東京) ●1-5 韓国

注) 台湾もエントリーしたが棄権

3 月 14 日 (東京) △2-2 韓国

韓国が出場 ●0-9 ハンガリー、●0-7 トルコ

WORLD CHAMPIONSHIP - JULES RIMET CUP 1954
古界蹴球選手権予選
QUALIFYING COMPETITION GROUP 13 KOREA / JAPAN
韓国対日本
次一試合 3月7日(日) 2時
次二試合 3月14日(日) 2時
A 300円
B 200円
C 100円
於 明治神宮競技場
主催 日本蹴球協会
神田 ミクニの運動具 TEL (83) 4933

1954 年ワールドカップ予選ポスター (日本サッカーミュージアム所蔵)

悪夢と感動

1954年6月、スイスでワールドカップ第5回大会が開催された。その年、私はマニラで開かれた第2回アジア大会に日本代表チームの一員として参加。サッカーの試合が終わったあとは、共同通信社の特派員団に加えられ、他の種目の試合結果の速報などを手伝った。

当時、共同通信社は秋の入社試験に合格すれば、大学を卒業しなくても試用社員として採用していた。私も12月から東京の日比谷公会堂と同じ建物(市政会館)の中にあった本社で、記者修行を始めていた。

マニラから帰ったあとは、運動部で「デスク」と呼ばれる最前線の指揮者の指導をうけ、外電の翻訳なども練習した。

だっ広い編集局の奥の壁に面した場所に、契約した外国通信社からの電報を受信する装置「チェッカー」が並び、24時間音を立てていた。

黄色い帯のような紙が洪水のように流れ出てくるのを、編集庶務部の若者が切り取っては、外信部のデスクに渡す。

普段はこの中から運動部に回されるスポーツニュースはそれほど多くないのだが、ワールドカップが始まったとたんその量が急に増加した。しかも、「チン、チン、チン」という音が至急報を知らせる回数も多くなった。

「出稿はスコアーだけ。あとは君が自由に参考に使っていいぞ」というのが運動部デスクの指示だった。試合経過を、関係者の談話などたんねんに伝える外電は、ワールドカップが世界の注目を浴びている熱気を伝えていた。アジア代表の韓国が一次リーグでハンガリー、トルコに大敗した記録もあった。

「あの試合はここにつながっていたんだ!」。手足がしびれ、足もとがぬかるみ、身動きが自由に出来ずに、韓国に敗れたくやしさが思い出され、同時に「ワールドカップ」について、あまりに無知だった自分に気がつき恥かしかった。

忘れもしないその試合は、3月7日午後2時から、明治神宮競技場で行われた。3日間降り続いた雪は、みぞれから雨にかわり、グラウンドには薄氷が張り、コンディションは最悪。ゴール前は

村岡博人(東教大2期:昭29年卒)
ぬかるみ、ところどころに水が溜り、田んぼのように足が引っ張られた。

もともと身長があまり高くなく、ジャンプ力とボールへの反応の早さで対応する守備をしていた私は、当時としては珍しい、前へ跳び出すGKとして評価されていたのだが、この日は足が奪われてしまった。

試合は前半16分、長沼健さん(中大)が左から持ち込み、ペナルティエリアの外からロングシュートを決めて先行した。だが体力の差は明白だった。時間がたつにつれて、一方的に押されるようになった。

ゴールのうしろには平木隆三君(関学)がいて、ボールが韓国サイドに行ったすきに、シュートと一緒に飛んできた土で、眼がみえなくなりそうな顔を拭いてくれたり、用意した交換用の軍手を渡したり、面倒をみてくれた。

この試合は前半1-2、後半0-3と5点を失って負け。第2試合も引き分けに終わって、ワールドカップへの出場権は韓国のものとなった。

それ以来、86、90、94、98年とアジア代表となったのは韓国で、日本のワールドカップへの初出場は、98年のフランス大会まで待たねばならなかった。

そして2002年4月、新聞やテレビをつうじてのワールドカップに関するニュースの洪水には、日本じゅうがもうすっかり慣れっこになっている。

日本代表対スロバキアの試合を、私は教育大同期の加藤三郎君と、国立競技場の正面スタンドで並んで見た。まるでじゅうたんのような芝生の上を跳ぶように走る選手、見事な反応を示すGK。眩しいような美しさ。

その感動と競うかのように、48年前の“悪夢”のような状態が、頭のなかに浮かんでは消えた。

私は今も、「全国の校庭を芝生に」という運動をしている国会議員を応援している。お願いだー学校教育に関わっている諸君、子供たちが芝生の上でいつでも遊べる日を実現してほしい。<茗友SC会報平成14年度第1号(2002年5月15日発行)>『あのひと、あのときーエピソードで綴る筑波大学蹴球部の120年』2016年11月発行より引用

<FIFA ワールドカップ アジア予選 (1958~1990) 日本のあゆみ>

1958 スウェーデン【エントリー55/予選参加46→本大会16】

日本はエントリーせず。アジア・アフリカのグループに中国・インドネシアが
出場。しかしイスラエルと対戦拒否続出。イスラエルはウェールズに敗れ出場ならず

1962 チリ【エントリー56/予選参加49→本大会16】

1960年11月6日(ソウル) ●1-2 韓国

1961年6月11日(東京) ●0-2 韓国

韓国はユーゴスラビアに敗退。アジア・アフリカから出場国0(欧州10、中南米6)

1966 イングランド【エントリー74(うちボイコット17)/予選参加51→本大会16】

日本はエントリーせず。アジア・アフリカ枠は北朝鮮(アフリカ勢は予選をボイコット)

北朝鮮がベスト8進出! ●0-3 ソ連、△1-1 チリ、○1-0 イタリア、●3-5 ポルトガル

1970 メキシコ【エントリー75/予選参加68→本大会16】

1969年10月10日(ソウル) ●1-3 オーストラリア、10月12日(ソウル) △2-2 韓国

10月16日(ソウル) △1-1 オーストラリア、10月18日(ソウル) ●0-2 韓国

アジア・オセアニアからイスラエルが
出場 ●0-2 ウルグアイ、△1-1 スウェーデン、△0-0 イタリア

1974 西ドイツ【エントリー99/予選参加90→本大会16】

1973年5月16日(ソウル) ●1-2 イスラエル ※予備予選

5月20日(ソウル) ○4-0 南ベトナム、5月22日(ソウル) ●0-1 香港 ※1次リーグ

5月26日(ソウル) ●0-1 イスラエル ※準決勝

アジア・オセアニアからオーストラリアが
出場 ●0-2 東ドイツ、●0-3 西ドイツ、△0-0 チリ

1978 アルゼンチン【エントリー107/予選参加95→本大会16】

1977年3月6日(テルアビブ) ●0-2 イスラエル、3月10日(テルアビブ) ●0-2 イスラエル

3月26日(東京) △0-0 韓国、4月3日(ソウル) ●0-1 韓国

アジア・オセアニアからイランが
出場 ●0-3 オランダ、△1-1 スコットランド、●1-4 ペルー

1982 スペイン【エントリー109/予選参加103→本大会24】

1980年12月22日(香港) ○1-0 シンガポール ※予備予選

12月26日(香港) ●0-1 中国、12月28日(香港) ○3-0 マカオ ※1次リーグ

12月30日(香港) ●0-1 北朝鮮 ※準決勝

アジア・オセアニアは2枠:クウェート △1-1 チェコスロバキア、●1-4 フランス、●0-1 イングランド

ニュージーランド ●2-5 スコットランド、●0-3 ソ連、●0-4 ブラジル

1986 メキシコ【エントリー121/予選参加110→本大会24】

1985年2月23日(シンガポール) ○3-1 シンガポール、3月21日(東京) ○1-0 北朝鮮

4月30日(平壤) △0-0 北朝鮮、5月18日(東京) ○5-0 シンガポール

8月11日(神戸) ○3-0 香港、9月22日(香港) ○2-1 香港

10月26日(東京) ●1-2 韓国、11月3日(ソウル) ●0-1 韓国

アジアは2枠:韓国 ●1-3 アルゼンチン △1-1 ブルガリア、●2-3 イタリア

イラク ●0-1 パラグアイ、●1-2 ベルギー、●0-1 メキシコ

1990 イタリア【エントリー116/予選参加103→本大会24】

1989年5月22日(香港) △0-0 香港、5月28日(ジャカルタ) △0-0 インドネシア

6月4日(東京・国立) ○2-1 北朝鮮、6月11日(東京・西が丘) ○5-0 インドネシア

6月18日(神戸) △0-0 香港、6月25日(平壤) ●1-2 北朝鮮

アジアは2枠:韓国 ●0-2 ベルギー ●1-3 スペイン、●0-1 ウルグアイ

UAE ●0-2 コロンビア、●1-5 西ドイツ、●1-4 ユーゴスラビア

＜2006FIFA ワールドカップ・ドイツ アジア最終予選＞

◇2002年大会（韓国・日本）は、エントリー199／予選参加193 → 本大会32

◆2006年大会はドイツは、エントリー198／予選参加194 → 本大会32

アジア枠は4.5に拡大（2002は2.5+日本・韓国）。日本は2次予選から出場。オマーン、インド、シンガポール相手に6戦全勝で3次予選へ。

◆3次予選は、勝ち上がった8か国がA・Bグループに分かれてH&A。各組上位2か国が本大会。3位はアジア第5代表戦。勝者が北中米カリブ海4位とプレーオフ（バーレーンがトリニダード・トバゴに敗退）。

◆グループAはサウジアラビア（勝点14）、韓国（10）、ウズベキスタン（5）、クウェート（4）

◆日本の結果（グループB）は次のとおり

2月9日(H) ○3-1 北朝鮮	6月3日(A) ○1-0 バーレーン
3月25日(A) ●1-2 イラン	6月8日(A バンコク) ○1-0 北朝鮮
3月30日(H) ○1-0 バーレーン	8月17日(H) ○2-1 イラン

	日本	イラン	バーレーン	北朝鮮	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
日本	/	○2-1 ●1-2	○1-0 ○1-0	○2-1 ○2-0	15	5	0	1	9	4	5
イラン	○2-1 ●1-2	/	○1-0 △0-0	○1-0 ○2-0	13	4	1	1	7	3	4
バーレーン	●0-1 ●0-1	△0-0 ●0-1	/	●2-3 ○2-1	4	1	1	4	4	7	-3
北朝鮮	●1-2 ●0-2	●0-2 ●0-1	●1-2 ○3-2	/	3	1	0	5	5	11	-6

＜2010FIFA ワールドカップ・南アフリカ アジア最終予選＞

◆エントリー204／予選参加201→本大会32。アジア枠は4.5を維持（オーストラリアがAFCへ）。日本はオーストラリア、韓国、サウジアラビア、イランとともに3次予選から出場。バーレーン、オマーン、タイに4勝1分1敗の勝点13。オマーンとともに4次予選進出。

◆4次予選は10か国がA・Bグループに分かれてH&A。各組上位2か国が本大会。3位は5次予選（アジア第5代表決定戦）。勝者がオセアニア代表とプレーオフ（バーレーンがニュージーランドに敗退）。

◆グループBは韓国（勝点16）、北朝鮮（12）、サウジアラビア（12）、イラン（11）、UAE（1）

◆日本の結果（Aグループ）は次のとおり

9月6日(A) ○3-2 バーレーン	3月28日(H) ○1-0 バーレーン
10月15日(H) △1-1 ウズベキスタン	6月6日(A) ○1-0 ウズベキスタン
11月19日(A) ○3-0 カタール	6月10日(H) △1-1 カタール
2月11日(H) △0-0 オーストラリア	6月17日(A) ●1-2 オーストラリア

	豪州	日本	バーレーン	カタール	ウズベキ	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
オーストラリア	/	○2-1 △0-0	○2-0 ○1-0	○4-0 △0-0	○2-0 ○1-0	20	6	2	0	12	1	11
日本	△0-0 ●1-2	/	○1-0 ○3-2	△1-1 ○3-0	△1-1 ○1-0	15	4	3	1	11	6	5
バーレーン	●0-1 ●0-2	●2-3 ●0-1	/	○1-0 △1-1	○1-0 ○1-0	10	3	1	4	6	8	-2
カタール	△0-0 ●0-4	●0-3 △1-1	△1-1 ●0-1	/	○3-0 ●0-4	6	1	3	4	5	14	-9
ウズベキスタン	●0-1 ●0-2	●0-1 △1-1	●0-1 ●0-1	○4-0 ●0-3	/	4	1	1	6	5	10	-5

＜2014FIFA ワールドカップ・ブラジル アジア最終予選＞

- ◆エントリー204／予選参加 203→本大会 32. アジア枠は 4.5 を維持。日本は韓国、オーストラリア、北朝鮮、バーレーンとともに3次予選から出場。ウズベキスタン、北朝鮮、タジキスタンに3勝1分2敗の勝点10。勝点16のウズベキスタンとともに最終予選進出。
- ◆4次予選は10か国がA・Bグループに分かれてH&A。各組上位2か国が本大会。3位はアジア第5代表決定戦。勝者が南米5位とプレーオフ（ヨルダンがウルグアイに0-5で敗退）。
- ◆グループAはイラン（勝点16）、韓国（14）、ウズベキスタン（14）、カタール（7）、レバノン（5）
- ◆日本の結果（グループB）は次のとおり

6月3日(H) ○3-0 オマーン	11月14日(A) ○2-1 オマーン
6月8日(H) ○6-0 ヨルダン	3月26日(A) ●1-2 ヨルダン
6月12日(A) △1-1 オーストラリア	6月4日(H) △1-1 オーストラリア
9月11日(H) ○1-0 イラク	6月11日(A ドーハ) ○1-0 イラク

	日本	豪州	ヨルダン	オマーン	イラク	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
日本		△1-1 △1-1	○6-0 ●1-2	○3-0 ○2-1	○1-0 ○1-0	17	5	2	1	16	5	11
オーストラリア	△1-1 △1-1		○4-0 ●1-2	△2-2 △0-0	○1-0 ○2-1	13	3	4	1	12	7	5
ヨルダン	○2-1 ●0-6	○2-1 ●0-4		○1-0 ●1-2	△1-1 ●0-1	10	3	1	4	7	16	-9
オマーン	●1-2 ●0-3	△0-0 △2-2	○2-1 ●0-1		○1-0 △1-1	9	2	3	3	7	10	-3
イラク	●0-1 ●0-1	●1-2 ●0-1	○1-0 △1-1	△1-1 ●0-1		5	1	2	5	4	8	-4

＜2018FIFA ワールドカップ・ロシア アジア予選＞

◆エントリー208／予選参加●→本大会 32。アジア枠は 4.5。日本は 2 次予選から。40 か国を 8 グループに分け H&A。上位 2 か国が 3 次予選へ。

	日本	シリア	シンガポール	アフガニスタン	カンボジア	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
日本		○3-0 ○5-0	△0-0 ○3-0	○6-0 ○5-0	○3-0 ○2-0	22	7	1	0	27	0	27
シリア	●0-3 ●0-5		○1-0 ○2-1	○6-0 ○5-2	○6-0 ○6-0	18	6	0	2	26	11	15
シンガポール	△0-0 ●0-3	●0-1 ●1-2		○1-0 ●1-2	○4-0 ○2-1	10	3	1	4	9	9	0
アフガニスタン	●0-6 ●0-5	●0-6 ●2-5	●0-1 ○2-1		○1-0 ○3-0	9	3	0	5	8	24	-16
カンボジア	●0-3 ●0-2	●0-6 ●0-6	●0-4 ●1-2	●0-1 ●0-3		0	0	0	8	1	27	-26

◆3 次予選は 12 か国が A・B グループに分かれて H&A。各組上位 2 か国が本大会。3 位はアジア第 5 代表決定戦（2017 年 10 月）。勝者が北中米カリブ海 4 位とプレーオフ（2017 年 11 月）。

＜グループ A＞

	イラン	韓国	ウズベキ	シリア	カタール	中国	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
イラン		○1-0 8/31	○2-0 ○1-0	9/5 △0-0	○2-0 ○1-0	○1-0 △0-0	20	6	2	0	8	0	8
韓国	8/31 ●0-1		○2-1 9/5	○1-0 △0-0	○3-2 ●2-3	○3-2 ●0-1	13	4	1	3	11	10	1
ウズベキスタン	●0-1 ●0-2	9/5 ●1-2		○1-0 ●0-1	○1-0 ○1-0	○2-0	12	4	0	4	6	6	0
シリア	△0-0 9/5	△0-0 ●0-1	○1-0 ●0-1		8/31 ●0-1	△2-2 ○1-0	9	2	3	3	4	5	-1
カタール	●0-1 ●0-2	○3-2 ●2-3	●0-1 ●0-1	○1-0 8/31		9/5 △0-0	7	2	1	5	6	10	-4
中華人民共和国	△0-0 ●0-1	○1-0 ●2-3	8/31 ●0-2	●0-1 △2-2	△0-0 9/5		6	1	3	4	5	9	-4

＜グループ B＞

	日本	サウジ	豪州	UAE	イラク	タイ	勝点	勝	分	負	総得点	総失点	得失差
日本		○2-1 9/5	8/31 △1-1	●1-2 ○2-0	○2-1 △1-1	○4-0 ○2-0	17	5	2	1	15	6	9
サウジアラビア	9/5 ●1-2		△2-2 ●2-3	○3-0 8/29	○1-0 ○2-1	○1-0 ○3-0	16	5	1	2	15	8	7
オーストラリア	△1-1 8/31	○3-2 △2-2		○2-0 ○1-0	○2-0 △1-1	9/5 △2-2	16	4	4	0	14	8	6
アラブ首長国連邦	●0-2 ○2-1	8/29 ●0-3	●0-1 ●0-2		○2-0 9/5	○3-1 △1-1	10	3	1	4	8	11	-3
イラク	△1-1 ●1-2	●1-2 ●0-1	△1-1 ●0-2	9/5 ●0-2		○4-0 8/31	5	1	2	5	8	11	-3
タイ	●0-2 ●0-4	●0-3 ●0-1	△2-2 9/5	△1-1 ●1-3	8/31 ●0-4		2	0	2	6	4	20	-16

◆日本の結果（グループ B）は次のとおり

9 月 1 日(H) ●1-2UAE

9 月 6 日(A) ○2-0 タイ

10 月 6 日(H) ○2-1 イラク

10 月 11 日(A) △1-1 オーストラリア

11 月 15 日(H) ○2-1 サウジアラビア

3 月 23 日(A) ○2-0UAE

3 月 28 日(H) ○4-0 タイ

6 月 13 日(A テヘラン) △1-1 イラク

8 月 31 日(H) オーストラリア

9 月 5 日(A) サウジアラビア